



氏名 小野 瑞貴
 学校名 旭川藤星高等学校
 学年 第1学年(94人)
 実施教科(領域) 地理総合

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名)：モンゴル人の水の悩みは降水量だけなのか？

2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）

モンゴルの水の課題は降水量だけでなく、場所によって水に対する課題が違うことに気づくことができる。またロールプレイを通して、現地の人の困りごとに寄り添うことで、水に対する課題を自分ごととして考えることができる。

3. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥帯の気候やモンゴルの生活文化について基本的な知識を理解している。 都市部、郊外、遊牧地域それぞれの水の入手方法を説明できる。
	②思考力、判断力、表現力	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件や資料から、各地域の水課題を読み取り、比較できる。 ロールプレイの役になりきり、立場に応じた困りごとを考え発言できる。 都市部、郊外、遊牧地域の課題の違いを整理し、自分の言葉で表現できる。
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイに積極的に参加し、他者の立場を尊重して考えようとしている。 モンゴルの課題を自分の生活や水の「当たり前」と対比して考えようとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> モンゴルと言えば「乾燥している」というイメージが強く、水の課題は降水量の少なさに集約されがちである。しかし実際には、モンゴル国内でも都市・地方・遊牧といった場所によって、水の入手方法や人々の困りごとは異なっていた。 <p>研修を通して、ウランバートル市内、トルゴイト地区、遊牧地域などの人々から直接話を聞き、場所によって水の課題や抱えている困りごとが大きく異なることを実感した。本単元では、まず乾燥帯に関する基礎的知識を理解した上で、モンゴルの三つの地域（都市部・郊外・遊牧地域）における水資源の状況と生活の違いに着目し、ロールプレイを通して現地の人々の生活を追体験することをねらいとした。特に、水資源の課題を「量」の問題としてのみ捉えるのではなく、地域によって水質・距離・利用方法・インフラ整備状況など課題の性質が大きく異なることに気付かせることを重視した。また、立場の異なる人物になりきって考える活動を通して、各地域の人々が抱える困りごとや価値観の相違に理解を深め、自らの当たり前を相対化して捉える視点を育成することを目指した。</p> <p>【単元の意義】</p> <ul style="list-style-type: none"> この単元では、乾燥帯の気候やモンゴルの生活文化を学ぶことで、自然環境と人々の暮らしの関わりを理解する。また、モンゴルの水問題を都市部、郊外、遊牧地域という場所から比較することで、水の課題を「量」だけでなく「質」や「アクセス」「安全性」「安定性」といった多面的に捉える力を育てる。さらに、ロールプレイを通して現地の人々の困りごとに寄り添い、自分の生活の「当たり前」を問い直すことで、他者理解やグローバルな視野を広げる。 	

	<p>【児童／生徒観】</p> <p>・本授業は特進コース（19名）・ULコース（15名）・進学コース（72名）の1年生を対象とした授業である。ULコースは、海外留学や英語による実践的な学習を通して、国際社会で活躍できる力を育てることを目指すコースである。どのコースの生徒もモンゴルに対して「乾燥していて水が少ない」という固定的なイメージを持っているが、水の課題を「降水量の少なさ」だけで理解しがちである。また、他者の立場を想像する力はまだ十分ではないが、ロールプレイを通じて役になりきることで共感的に考えることができる。したがって本単元では、ロールプレイを通じて水課題を自分ごととして捉え、場所によって課題が違うだけでなく、それぞれの立場によって抱えている困りごとにも違いがあることを学びの中で理解できるよう支援する必要がある。なお生徒たちはこれまで開発教育や国際理解教育を受けた経験はない。</p> <p>【指導観】</p> <p>・本単元の指導にあたっては、モンゴルの水問題を「降水量の少なさ」だけで理解するのではなく、都市部、郊外、遊牧地域といった生活の違いに根ざした多様な困りごとに焦点を当てる。生徒がロールプレイを通して他者の立場を想像し、自分の言葉で課題を語る経験を重視することで、知識の定着に加えて、世界の課題を多面的・主体的に捉える力を育成することを目指す。</p>
--	--

5. 単元計画（全 2 時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1	<p>・気候と文化からモンゴルについて知り、現地の人の生活スタイルについて都市部、郊外、遊牧地域の三つの観点から学ぶ</p>	<p>・イメージマッピングで乾燥帯のイメージを振り返る。</p> <p>・モンゴルの気候について学ぶ。</p> <p>・年間の降水量が極端に少ない地域であることを知る。</p> <p>・モンゴルの文化（ゲル・デール）に触れる。</p> <p>・遊牧の写真を通して、遊牧民の生活を学ぶ。</p> <p>・こういう暮らしの中で、欠かせないものは何だろう？</p> <p>生徒：雨が少ない地域だから水。 家畜を育てる必要があるから餌。 でも餌（ステップの草原）も雨が少ないと枯れてしまうから、やっぱり水が必要か？</p> <p>・「水はどう確保しているのか？」を次時の課題として設定する。</p>	<p>スライド ワークシート</p> <p>ゲル デール</p>
2 (本時)	<p>モンゴルの水の課題は降水量だけでなく、モンゴル国内でも場所によって課題が違うことに気づく。また3地域の人々の立場によって抱えている困りごとにも差があることに気づく。</p>	<p>3つの地域（遊牧・都市・郊外）のロールプレイを通じて、場所によって水の課題が違うことに気づく。</p> <p>・プロフィールカードをもとに、担当の人物になりきり、現地の人の困りごとを体験する。</p>	<p>スライド ロールプレイカード</p>

6. 本時の展開 (2 / 2)
 本時のねらい：モンゴルの水課題が「量」だけでは説明できず、地域によって課題の内容や深刻さが異なること、さらに生活背景の違いから生まれる困りごとや価値観の差異に気づく。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 5分	<p>○前時までの確認</p> <p>前回、モンゴルの人々の生活を振り返って、生活を送る上で欠かせないものは「水」という予想になりましたね。実際にモンゴルの人はどうやって生活する上で必要な水を手に入れているのでしょうか？</p> <p>○本時の課題</p> <p>モンゴルの3地域では、具体的にどのように水を手に入れ、どのような困りごとを抱えているのかを比較する</p>		スライド
展開① 20分	<p>○ロールプレイの説明</p> <p>発問：実際にモンゴルの人生活する上でどうやって必要な水を手に入れているか。</p> <p>※ロールプレイを通して役割に感情移入をしてなりきる。</p> <p>①各役割のプロフィールを確認する。</p> <p>②プロフィールカードをもとに自分の言葉に噛み砕いて、同じ班の人に自己紹介をしてください。</p>	<p>生徒に自身の役割を確認させる。</p> <p>ただカードを読み上げるのではなく、自分の言葉で読み上げるようにする。</p>	<p>ロールプレイカード</p> <p>プロフィールカード</p>

【 プロフィールカード 】

チンギス (ウランバートル市)	ゲレルトヤー (郊外)	ナラン (遊牧地域)
年齢：18歳 (高校3年生)	年齢：15歳 (中学3年生)	年齢：17歳 (高校2年生)
性別：男	性別：女	性別：女
住んでいる場所：ウランバートル中心部のアパート	住んでいる場所：ウランバートル郊外 (トルゴイト地区のゲル)	住んでいる場所：草原地帯の遊牧地域
家族構成：父・母・妹の4人家族	家族構成：父・母・弟の4人家族	家族構成：父・母の3人家族

<p>③それぞれの役割の出来事カード(朝・昼・夜)の朝カードを表にして、朝に起きた出来事を確認する。</p> <p>活動1：朝の出来事カードを見て、グループの人に朝に起こったこと or 朝にしたことを説明する。(3分)</p> <p>活動2：昼の出来事カードを見て、グループの人に昼に起こったこと or 昼にしたことを説明する。(3分)</p>	<p>カードをただ読むのではなく、自分の言葉で噛み砕いて説明する。</p>
--	---------------------------------------

	<p>活動3：夜の出来事カードを見て、グループの人に夜に起こったこと or 夜にしたことを説明する。(3分)</p> <p>④ロールプレイをもとにグループ内で3つの地域の水の入手方法をワークシートに整理する。</p> <p>⑤ロールプレイを通して感じたことをグループで議論する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナラン(遊牧)の暮らしが大変そう。 ・チンギスの暮らしが想定より日本と変わらない。水を使いたい時に使える生活。 ・ゲレルトヤーの地域で地下水の汲み上げの有料給水所を使用しているが、水が濁っていて安全面で心配だった。 <p>○発表</p> <p>①3つの地域の水の入手方法 遊牧：雨・家畜人用の井戸 郊外：給水所 都市：蛇口</p> <p>②現地の人困りごと・不安感 遊牧：水までの距離が遠い。家畜と同じ水を使用しているので安全性が不安。すぐに水を利用できる環境ではない。 郊外：水を汲んで家まで持ってくるのは大変。 都会：あまり水への困りごとを感じなかった。将来的に水がなくなる可能性がありそう。</p>	<p>水の入手方法と感じたことをワークシートに整理させる。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>展開② 15分</p>	<p>○今日の授業を通して気づいたことの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じモンゴル・同じ年代でも場所によって住む場所、生活スタイルや生活レベルが違った。 ・都会(ウランバートル)の高校生と日本の高校生の生活は違うと思っていたが生活の仕方が日本に近かった。 ・遊牧地域と郊外・都市で人々の水への関わり方が全然違った。 ・量だけでなく安全性や距離にも課題があることがわかった。3箇所に住む人々がそれぞれ水の課題を抱えていることがわかった。 		<p>ワークシート</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○まとめ</p> <p>都市部・郊外・遊牧地域のそれぞれの地域で水へのアクセス方法や現地の人々が抱える困りごとが異なり、水課題は一概に「量」だけでは捉えられず地域の生活条件に根ざした多</p>		<p>スライド</p>

	様な困りごとが存在することがわかった。	
7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ・知識・技能：乾燥帯やモンゴルの自然環境・文化を理解し、都市・地方・遊牧の水利用の特徴を説明できたか。 ・思考・判断・表現：資料や条件を基に各地域の課題を比較し、水課題の多様性を自分の言葉で説明できたか。 ・態度：役割演技や対話に積極的に参加し、他者の立場を尊重しながら水課題を自分ごととして捉えようとしているか。		

【参考資料】

資料および外部との連携

- ・東京書籍株式会社（2025）『地理総合』令和8年度版、東京書籍、pp.82-83
- ・Ministry of Environment and Green Development, Government of Mongolia. *Tuul River Basin Integrated Water Management Plan*. Developed within the framework of the “Strengthening Integrated Water Resources Management in Mongolia” project, funded by the Government of the Kingdom of the Netherlands. Ulaanbaatar, 2012.
- ・独立行政法人 国際協力機構 JICA 『モンゴル国 ウランバートル市給水事業に関する調査報告書』2010年、モンゴル国道路運輸建設都市開発省ウランバートル市上下水道公社
- ・chatGPTでのプロフィールカード作成時のプロンプト

「モンゴルの遊牧地域に住む10代の子どもをイメージしたイラストを作成してください。実写写真をもとに、人物の表情や服装の特徴は活かしつつ、イラスト調で柔らかい雰囲気にしてください。教材として使用するため、3人とも共通した親しみやすいタッチで、背景はシンプルにしてください。」

【自己評価】

苦勞した点	本単元では、モンゴル国内における水資源の課題の地域差を、生徒が知識の羅列としてではなく、立場に応じた困りごとの違いとして理解できるようにすることを重視した。都市部・郊外・遊牧地域では、水量・水質・距離・インフラなど課題の種類が大きく異なり、それが生活の切実さに直結する構造であるということを生徒が整理するのは容易ではなかった。特に、生徒が「モンゴル＝水が少ない国」という一般的イメージに捉われており、地域内の多様性に目を向けさせるためには、教材の扱い方や発問の内容に工夫が必要であったと感じている。
改善点	ロールプレイ用の人物カードを用いて背景理解と感情移入を促すことをねらったが、生徒がカードに書かれた情報のみを手がかりに演じてしまい、各人物が置かれている状況や価値観への理解が十分に深まらないまま活動が進む場面があった。そのため、「立場の違いから生じる水課題に関するジレンマ」や「価値観の衝突」がグループ内で明確に表れなかった。今後は、人物カードに生活条件・優先順位・価値観などの背景情報をより具体的に盛り込み、活動の中で自然に対立や葛藤が浮かび上がるよう、教材の精緻化を図る必要がある。
成果が出た点	どのクラスにおいても共通教材を用いたが、発問の言い回しを調整したことで、生徒の思考の深まりが見られた。特に、ロールプレイ後のワークシートにおいて「距離」「安全性」「アクセス」の3軸で課題を整理できる生徒が増え、課題を単に水が少ないという視点から多面的に捉える姿勢が育まれた。また、都市地域の生活が日本と似ていることに気づき、固定的イメージに揺さぶり

	がかかる学習となった点は、本単元の成果である。
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<p>【授業を通して感じたこと（生徒記述）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じモンゴル・同じ年代でも場所によって住む場所、生活スタイルや生活レベルが違った。 ・都会（ウランバートル）の高校生と日本の高校生の生活はもっと違うと思っていたが生活の仕方が似ていた。 ・遊牧地域と郊外・都市で人々の水への関わり方が全然違った。 ・水が足りない地域だと思っていたが、量だけでなく安全性や距離にも課題があることがわかった。
<p>授業者による自由記述</p>	<p>現地研修で感じた「都市部と農村部での暮らしの違いの大きさ」は、生徒にモンゴルを一つのイメージで捉えきれないことを伝える上でとても大事な視点だった。本単元では、現地で得たその気づきを授業の中に取り入れ、生徒が自分の当たり前を見直せるような構成を意識した。今後は、研修で見た人々の生活の様子をより生かせるよう、ロールプレイ用の人物カードにもう少し背景を加えるなどして、活動がさらに深まるよう工夫していきたい。</p>
<p>次年度以降の取組予定</p>	<p>次年度は、モンゴルにおける課題理解に留まらず、日本の水問題との関連を明確に位置づけた単元構成へ改善したい。日本にもバーチャルウォーターや水道インフラの老朽化などの課題が存在し、さらに日本はモンゴルへの水道技術支援を通じて国際的な相互補完的な関係を形成している。これらの視点を扱うことで、生徒がモンゴルの課題を遠い国の出来事ではなく、自らの生活とつながる問題として捉え、自分ごととして考える契機をつくることができると思う。また、人物カードやロールプレイについては、背景情報や価値観の設定をより精緻化し、立場の違いから生じる対立やジレンマが自然に浮かび上がるよう改良を加えることで、学習の深まりを一層促進したい。これらの改善を通して、単元目標である「当たりの相対化」と「他者理解の深化」をより確実に実現していきたい。</p>

【ロールプレイカード】


ウランバートル(都市)



チンギス

- 年齢: 18歳(高校3年生)
- 性別: 男
- 住んでいる場所: ウランバートル中心部のアパート
- 家族構成: 父・母・妹の4人家族
- 学校生活: 私立高校に通っていて、政治家を目指して勉強中。

ウランバートル(郊外)



ゲレルトヤー

- 年齢: 15歳(中学3年生)
- 性別: 女
- 住んでいる場所: ウランバートル郊外トルゴイト地区のグル
- 家族構成: 父・母・弟の4人家族
- 学校生活: 近くの中学校に通っている。朝はお母さんと水くみをしてから登校。

遊牧地域



ナラン

- 年齢: 17歳(高校2年生)
- 性別: 女
- 住んでいる場所: 草原地帯の遊牧地域
- 家族構成: 父・母の3人家族
- 学校生活: 放牧を手伝いながらオンラインで勉強している。

<p>ウランバートル(都市)</p>  <p>洗面所、日本と違いはない。</p> <p>【チンギスの朝】 朝起きて毎日の習慣であるシャワーを浴びて体がサッパリした。今日も1日勉強頑張るぞ!</p>	<p>ウランバートル(都市)</p>  <p>うちの地区、下水道がなくトイレが困る</p> <p>ウランバートルの水道普及率: 約70% 下水道普及率: 約30%</p> <p>【チンギスの昼】 別の学校の友だちが「うちの地区、下水道がなくトイレが困る」と話していた。郊外ではまだ上水道や下水道がつながっていない地区もあるみたい。</p>	<p>ウランバートル(都市)</p>  <p>【チンギスの夜】 夜のニュースで「川や地下水が汚れてきている」と言っていた。小さい頃はモンゴルの水は綺麗で豊富って聞いていたけれど、将来的にはどうなんだろう。</p>
<p>ウランバートル(郊外)</p>  <p>地下水を汲み上げて市民に配布する有料供給所</p> <p>【ゲレルトヤーの朝】 朝6時、ポリタンクを持って給水所に行った。タンクが重くて風も冷たくて手が痛い。</p>	<p>ウランバートル(郊外)</p>  <p>ポットトイレ (ただし、地面に穴を開けただけ)</p> <p>【ゲレルトヤーの昼】 私の地区は上水道も下水道もないから、街みたいに気軽に手も洗えない。だけど今日は3日に1回のシャワーだ! 公衆シャワーでサッパリしたいな!</p>	<p>ウランバートル(郊外)</p>  <p>【ゲレルトヤーの夜】 夜、お母さんが夕食を作りながら言った。「今日は水が少ないから、洗濯は明日にしようね。」茶色い水を鍋の中に入れて煮沸し、少しずつ大切に使った。</p>
<p>遊牧地域</p>  <p>【ナランの朝】 朝、雨が降りました。久しぶりの雨です。ずっと空は青く澄んでいたけど地面にはひびが入っていたので心配していました。最後に雨が降ったのはいつだったか? と父に聞いたら、「1ヶ月前に一回振ったから、これが今年2回目の雨になるね」と言われました。</p>	<p>遊牧地域</p>  <p>【ナランの昼】 家畜に水を飲ませるために5キロ離れた家畜兼人間の井戸に来た。家族用にも水を汲むと地下水はずこし茶色に濁っていた。なぜだろう?</p>	<p>遊牧地域</p>  <p>ポットトイレ (ただし、地面に穴を開けた後、汚物を回収することはない)</p> <p>【ナランの夜】 夜中、トイレに行きたくなり起きてしまった。少し寒いので、上着を羽織って外に出た。星空が綺麗だった。明日は久しぶりに川に行つて体を綺麗にしようと思う。</p>

地理総合

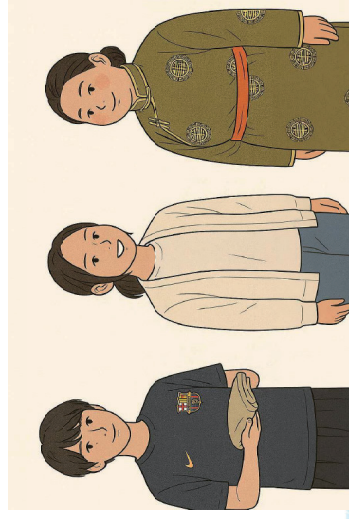
20. 乾燥帯の人々の暮らし②

Q：モンゴルの人はどうやって生活する上で必要な水を手に入れているか？

では、実際に現地の人になりきって考えてみましょう！

ロールプレイ

- Q：モンゴルの人はどうやって生活する上で必要な水を手に入れているか？
- I：三人グループになり、一人一役演じてもらいます。
 ➡では実際に演じてもらおう人物を見てみましょう。



ロールプレイ

- 2：プロフィールカードを1枚引いて自分の役を確認してください。(30秒)
- 役のなりきり開始 —
- 3：プロフィールカードを元に班の人に自己紹介しましょう。(1分30秒)

ロールプレイ

- 4：一つの役に3枚出来事カード(朝・昼・夜)があります。出来事カードを朝から順番に引いてもらい、それを見ながらスライドの質問に答えてもらいます。

ロールプレイ

- 朝の出来事カードを表にしてください。
- 朝の出来事カードを見て、グループの人に
 ・朝に起こったこと or 朝にしたこと を説明
 (3分)

ロールプレイ

- 昼の出来事カードを表にしてください。
- 昼の出来事カードを見て、グループの人に
 ・昼に起こったこと or 昼にしたこと を説明
 (3分)

ロールプレイ

夜の出来事カードを表にしてください。

夜の出来事カードを見て、グループの人に

・夜に起こったこと or 夜にしたこと を説明

(3分)

ロールプレイを思い出しながらグループ内で、三つの地域を比較しまとめよう。

① 3つの地域の水の入手方法

② 現地の人々の困りごと・不安感

【ワークシート】(1時で使用)

地理総合

20：雨が少ない！どうやって水を得る？(乾燥帯の人々の暮らし) ㊦

【本日の目標】

モンゴルの人の限られた資源に対する思いを聞いた上で、どのように手に入れて生活の中で利用しているのか、について自分の言葉で説明できるようになる。

【モンゴルの基本情報】

モンゴルの面積 (1,564,000 km²)

人口：352.5 万

首都：{ }

【モンゴルの気候】

気候とは？

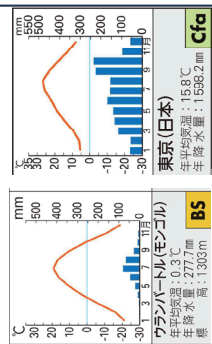
→ { }

モンゴルの気候は？

→ { }

→ 雨温図を比較してわかることは？

→ { }



【モンゴルの衣食住】

○モンゴルの食事

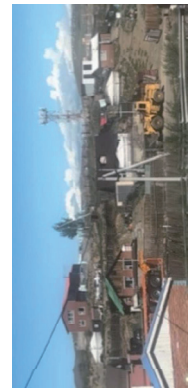
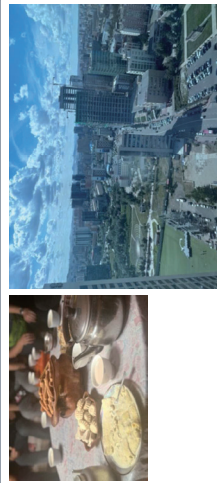
- ・ 基本の食事① { }
- ・ 基本の食事② { }

○モンゴルの住居

- ・ { } (移動式住居)
- ・ 都会は { } の住居 (アパートなど)
- ➡ 中心街から少し離れたと { } と家が混在している。

○モンゴルの衣服

- ・ { }
-



【予想】

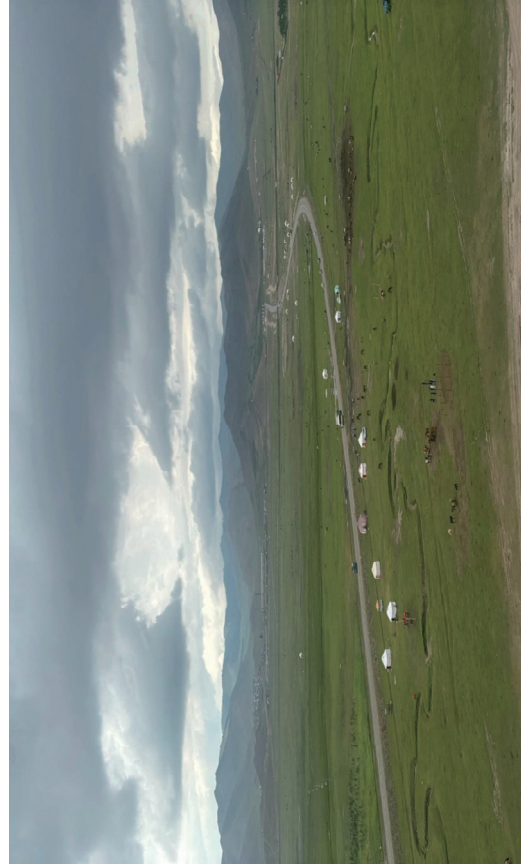
Q1：モンゴルの人々の生活を振り返って、モンゴルの人々が生活を送る上で欠かせないものはなんだろう？

(あなたの予想)



Q2：

(あなたの予想)



[ワークシート](本時で使用)

モンゴル【ロールプレイ】

私の役割【
】

友達の役割【
】

友達の役割【
】

○ 今日の授業を通して感じたこと・気づいたこと

○ まとめ

わたしの一枚



乳製品と歓迎の心

写真を撮った場所：農家さんの家庭で撮影

農地見学後に訪問した農家さんで、料理を振る舞っていただいたときの一枚である。モンゴルには、訪れた人を料理でもてなし歓迎する文化があり、私たちが訪問した際にも、伝統的な乳製品を中心とした料理を用意してくださった。

モンゴルの乳製品には多くの種類があり、このときは「アーロール」や「エーズキー」など、日本ではあまり口にする事のないチーズをいただいた。写真右中央に写っている「ボールツォグ」は、ドーナツのような素朴な甘さのおやつである。

後日訪れた別の家庭でも同様にもてなしを受け、特に印象に残っているのが、塩を入れたミルクティー「スーテーツァイ」である。甘い飲み物という先入観を覆す味わいに、異国の食文化を強く感じた。こうした乳製品文化と、惜しみなく料理を分け与えるもてなしの姿勢、そして困っていると自然に声をかけてくれる人々の温かさに触れ、モンゴルの民族性の豊かさを改めて実感した一枚である。

氏名：小野 瑞貴

学校名：旭川藤星高等学校